



全日本グランドソフトボール連盟 会報 第14号

第14号 平成30年10月13日発行
発行者 全日本グランドソフトボール連盟
渡辺 照夫
事務局 〒457-0865 名古屋市南区氷室町 20-2
Tel 052-692-3711
<http://www.aj-gsb.com/>
編集者 広報部長 清田 郁也

巻頭言

全日本グランドソフトボール連盟
会長 渡辺 照夫

当連盟の活動にご理解とご協力を頂きまして熱く御礼申し上げます。

平成30年は、異常気象の影響による全国各地を襲った豪雨、季節外れの台風の直撃、異常寒波の襲来、連日の猛暑等グランドソフトボールの活動に影響を与えた中、今回の会報第14号は、第3回台湾海外交流、全日本グランドソフトボール選手権大会、全国障害者スポーツ大会を中心に発行いたします。

第19回全日本グランドソフトボール選手権大会について

例年、台風の影響を受けて開催運営に苦慮しておりましたが、今年は一週間開催日を遅らせ、秋分の日を開催日としました。

結果として、全18試合を無事に消化することができました。そして、見事、若い力を爆発させた香川県が初優勝を飾りました。おめでとう 香川県



第18回全国障害者スポーツ大会 福井しあわせ元気大会 2018 出場チーム紹介

【福井県チーム】



福井県にはグランドソフトボールチームがなく、今大会に向けて盲学校の生徒を中心に立ち上げられたチームです。実績も経験もありませんが、日頃の練習の成果を発揮して、最後まで全力でプレーしたいと思います。みなさんの来県をお待ちしています。

【岩手県チーム】



3年連続の出場となりました。
ピッチャーを中心に強豪チームの攻撃を最少失点に抑え、粘りに粘ってジリジリした試合に持ち込み、岩手らしい地味な勝負をしたいと目論んでいます。
若い世代も出場しますので、皆様のあたたかいご声援で育ててください。

【東京都チーム】



私たち東京チームは昨年に引き続き連続出場となりました。レジェンドと言える66歳の選手から、ラーメンを週6回食べるほどのめん食い20代まで年齢層が広いチームです。一発を打てる大砲はいませんが、少ないチャンスをもものにして、強みのディフェンスで守り勝つチームです。5年前の東京大会でグラウンドに置き忘れたものを何とか持ち帰れればと思っています。それに新婚のメンバーが「お祝いが一番いい色のメダルが良い」と言ってますし（笑）。地震や大雨でグラソフどころではない仲間たちもいる中、素晴らしい環境で試合が出来ることに感謝をしつつ、全力を出し切れればとチーム一同思っております。関係者の皆さん、ありがとうございます。

（三重県チーム）



三重県チームは今年で3年連続の出場となりますが、去年は初戦で惨敗でした。今年は少ないチャンスを生かし、しっかり守って初戦突破を目指します。

【大阪市チーム】



老若男女の力が集まった大阪市チーム。浪速の闘志で1球集中！笑いもアウトもきっちり捕ります！今までの壮絶な練習を糧に一戦必勝で戦い抜きます！

【徳島県チーム】



6年ぶりに掴んだ全国大会への出場権ですが、チームの平均年齢は55歳。超熟年の山田選手は今なお健在。徳島が変わったところは、4人のマドンナがガッチリ、サポートしチームの燃費が飛躍的に伸びたこと。それに加え、エースの酒井投手が名実共にチームの大黒柱へと成長し、中妻選手が走攻守にチームを牽引する存在となったこと。この二人を軸にチーム一丸となって一戦一戦を泥臭く勝ち上がりたい。120%の力をだし、目指すは10回目の全国制覇。

【鹿児島県チーム】

全国の皆さん九州ブロック代表の鹿児島県です。
今回で3年ぶり15回目の出場になります。
九州8チームとクラブチームの熱い思いを一つにして、正々堂々



と戦います。

2019 年は鹿児島県で、第 20 回全日本グランドソフトボール選手権大会、2020 年は第 20 回全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会を控えて悲願の初優勝を目指して頑張ります。みなさんのご声援を宜しくお願いします。チェスト！

第 19 回全日本選手権 香川県 悲願の初優勝！

今年は、台風に翻弄され中止を余儀なくされた昨年の第 18 回大会とうって変わり、好天に恵まれ、予定どおり全 18 試合を行うことができました。数々の熱戦の結果、若さ溢れる香川県チームが初優勝を飾り、四国ブロックの 3 連覇となりました。

全試合結果と、最終順位は以下の表のとおりです。

また今年は、全盲プレイヤーの技術とスピード感をアピールしていきたいと考え、エキジビションにおいて例年のスピードガン競争に加え、全盲選手による 2 塁までのベースランニング競争を実施しました。ともに好記録が続出し、会場は大いに盛り上がりました。

エキジビションの結果は、スピードガン競争が 71 km の新記録で、TEAM 九州の緒方選手が 1 位、走塁では走力に加え、1 塁を無駄なく回った岩手県チームの千葉選手が 8.02 秒の好記録で見事 1 位に輝きました。今後とも全国からの挑戦をお待ちしています。

「躍動感溢れるエキジビションの様子」




【1 日目結果】

A 球場	B 球場
三重県 3 対 0 岩手県 三重県 2 対 7 TEAM 九州 岩手県 1 対 9 TEAM 九州	香川県 7 対 6 滋賀・京都連合 香川県 8 対 1 アルバトロス 滋賀・京都連合 10 対 0 アルバトロス
C 球場	
北信越選抜 0 対 16 愛知県 北信越選抜 0 対 9 中国 BLAZE 愛知県 7 対 2 中国 BLAZE	

【2 日目結果】


A 球場	B 球場
TEAM 九州 1 対 3 香川県 TEAM 九州 5 対 2 愛知県 香川県 3 対 0 愛知県	中国 Blaze 6 対 3 三重県 中国 Blaze 14 対 1 滋賀・京都連合 三重県 7 対 1 滋賀・京都連合
C 球場	
岩手県 2 対 4 アルバトロス 岩手県 2 対 1 北信越選抜	

アルバトロス 11 対 0 北信越選抜	
【総合順位】	5位 三重県
優勝 香川県	6位 滋賀・京都連合
準優勝 TEAM九州	7位 アルバトロス
3位 愛知県	8位 岩手県
4位 中国BLAZE	9位 北信越選抜



第3回台湾海外 交流会に参加して

浦野 清



去る6月29日から7月1日までの3日間、今年度の大きなイベントの一つである第3回台湾海外交流会に、参加15名の1人として行って参りました。3年前の交流会から続けての参加となりましたが、その間に台湾でグランドソフトボールがどのように浸透しているのか？非常に興味深く成田空港を飛び立ちました。

初日は台北で参加者全員が合流してから高雄までの移動で丸々費やし、いよいよ2日目台湾特有の蒸し暑さの中スタートした交流会は、いきなり台湾チームとの試合！多少面食らいましたが、この試合が日本グランドソフトボール史上初の対外試合として大きな第一歩となりました。試合内容はともかく台湾チーム選手の運動能力の高さは、前回の交流会や一昨年の全日本選手権にて折り紙付きでしたが、今回までの間にみっちりグラソフの練習を積んで更にレベルアップしていました。しかしながらビーブボールにそういうプレーがないからなのですが、「打球を捕ってから送球する」という動作が難しいようで、ボールを持って一目散に一塁に駆けて来るシーンが見受けられました。

その後少人数のグループに分かれて、台湾チームが実践しているビーブボールとグラソフの工夫を凝らした練習方法を体験しました。木の枠組みを使ったストラックアウトの様な投球練習や紐付きのボールを使った打撃練習等、我々の練習にも多いに参考になりましたし、グラソフの初心者向けのイベント等に活用できるなぁと感じました。ビーブボールの練習方法も初心者でも無理無く楽しくステップアップ出来るように組み立てられてあり、その考え方はグラソフの練習方法にも非常に参考になると感じました。

午後からはビーブボールの親善試合を行ない、我々日本チームも善戦健闘したかな？私個人的にはビーブボールはどーにもバットがボールに当たらない！前回から一球も当たらないんじゃないか？しかも自分だけ？あら残念！私と同じく交流会連続参加のピーナツの国のN野君は打撃に守備に大活躍でこのまま台湾に置いて帰ろうってくらいでした。試合の後は、参加者全員でパネルディスカッションを行い、国が変わって言葉が違っても、視覚障害スポーツの環境、延いては視覚障害者自身の課題等抱えるものはあまり変わらないのだなと強く感じました。

海外へ出掛けて見聞を広げるのは、勿論有意義なことは間違いありません。同じもので

も所変われば品変わる、同じものでも見方が変われば全く違う風に見えたりします。グラウンドソフトボールも台湾という熱い国で、我々の思っていたものと違う進化発展を遂げる途中なのかも知れません。私もハッとしました。ルールが複雑とか人数が多いとかグラソフを普及浸透させる過程で、果ては国際化を進めるうえでハードルになり得る幾つかの問題点に関して、それを乗り越えるための大変大きなヒント手掛かりをつかんだ交流会だったように思います。



モグモグの独り言 NO8

今年のモグモグは、6月末から連盟のおじさん達と台湾へ行ってきました。

台湾で行われている視覚障害者の野球ビーボールを試合形式で体験し、グラウンドソフトボールの試合も台湾チームと対戦したよ。

とっても楽しかったよ。世界には、いろいろな視覚障害者の野球があるから、世界のお友達と楽しく野球ができるようになる事が、モグモグの夢だよ。

編集後記

今年の夏は、猛暑や土砂災害、地震など様々な自然の猛威に翻弄され、グラソフ関係者にも、床上や床下浸水の被害に遭った選手がありました。今も復旧に向けた作業途中のS選手が、そんな中、次のような一幕があったことを明るく話してくれました。少し躊躇しましたが、本人の了解も得ましたのでご紹介します。

「視覚障害、泣き笑い」

(エントリーNo15)

7月の広島豪雨災害で床上まで泥水が上がり、自宅が大きな被害を受けた全盲のS選手。多くのボランティアの支援を得ながら、復旧作業に当たっていたある猛暑日の出来事です。その日は20人を越えるボランティアの方が参加され、家の内外に分かれて、荷物の搬出や、ヘドロを出した後の床や壁の拭き掃除、床下に残る泥水の排出など、様々な作業が行われていたそうです。ボランティアに参加していた私たち共通の友人Uさんは、その中に「どこかで見たような、でもなんとなくオーラがちがうような？」と感じる女性がいると思っていたそうです。休憩時間には、その女性がポカリスエットを配って歩いたりもしたそうです。そんな中、出先から帰ってきたS選手を見かけ、件の女性が近づいて一言、「今日ボランティアに参加している吉田といいます」、「ああそうですか、お世話になります」と薄いリアクションのS選手、「女優をやっている吉田といいます」と付け加える件の女性、「ああそうなんですか、ありがとうございます」とまだ薄いリアクションのS選手、「ひつじと書いて吉田羊といいます」とさらに付け加える件の女性、とそのやりとりが耳に入ったUさんが慌てて飛んできて「Sさん、Sさん、ものすごく有名な女優さんなんよー」とフォロー。吉田さんも「今日はノーメイクですから。」と引き続きのフォロー。最も全盲のSさんにはフォローにはなっていませんが、でも香水の香りは高そうだったとも言っていました。後でインターネットで検索して、朝ドラ、大河ドラマにCMと超売れっ子女優だと初めて知ったS選手、「だって文字通りドラマ見ないから」とのこと。

マスクも連れず、暑い中、ボランティアに参加された吉田さんに敬意を表するとともに、S選手の早期のグラソフへの復帰を期待します。少しはテレビ見ましょう。

i-kiyota@sky.megaegg.ne.jp 広報部長 清田郁也